



会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

中小物づくり企業が期待する 専門高校教育への提言

日本ベルパーティ(株) 取締役会長 西 畑 三樹男



1 理性のない混濁社会

昭和一桁の人には想像も出来ない豊かさとその反面、毎日報道されている人間では考えられない暗黒な殺人、交通事故、お金に絡む汚職や飽食と一部若者の自由奔放な行動に心を痛めている人は多いと思われる。その中において小さい時から、良いこと、悪いことの判断が大切でこれを実行するには、人間としての心の豊かさと真心を誠実に育成する必要があり、老若男女の責務であると考えられる。

心の豊かさとは、物質面よりも精神面によるもので、共存・共栄精神があればできるもので安倍総理が提唱されている、美しい国づくりの基本であると言えよう。

2 家庭教育と歴史

最近の家庭は、昭和初期のように祖父母、親、兄弟が身を寄せ合って昔話に耳を傾けることはなく、寂しいものである。ゆっくり話し合うのも教育である。

戦争を知らない若者に伝えたいことがある。戦争の悲劇とは、社会の片隅に追いやられた恵まれない貧乏人に皺寄せされたものである。農村の貧乏な15、16歳の少年達は、食べることも覚束ないため、満蒙開拓義勇軍、海軍特別少年兵として潜水艦や戦艦大和とともに太平洋の藻屑と消えた。いまでもその友人は何を思い、何を考えて居ただろうか、忘れる事はない。

3 名工と匠の技の教え

日本には、世界を制した優れた技術がある。この基本は、鉄は国家なりと言われた鉄鋼産業と通信、情報機器に寄与した半導体、電子機器材料の軽薄短小産業である。また、隠れた技術に品質管理、材料の評価技術があり、JIS規格に制定されている。また、日本技術の強みは、名工と言われる人や匠の技がある。この人達は、気の遠くなるような歳月と努力によるもので必ずしも大企業ではなく、薄暗い現場で挑戦している小さい会社の人である。これらの技術の難しさを勉強することも大切である。

4 専門高校生は、中小企業の幹部候補生

21世紀は、大企業でも独創力がなければ消え、小さい会社でも力があれば発展する。

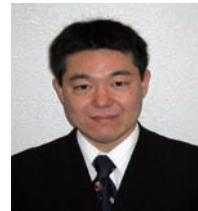
生涯、安定した生活を構築するための職業は、安易で楽なものはない。その中で、自分が満足し、一歩一歩向上するには、普通の努力ではなかなか到達できない、それが技術であり、専門職である。専門高校生は、中小企業の幹部候補生の資質があり、その中にあって学問の深さを知り、学歴や学校差は九牛の一毛であることを肝に銘じておくことである。

21世紀の技術者は、世界が相手で外国語と先端技術の勉強が必須条件で、毎日、よく食べ、よく遊び、よく眠り、よく学び、世界のどこでも気軽に生活できる身体を作ることが求められている。

〈実践事例〉

全国高等学校 生徒商業研究発表大会に参加して

東京都立芝商業高等学校 教諭 親 泊 寛 昌



平成18年11月14日～16日の期間、鹿児島市民文化ホールにおいて行われた第14回「全国高等学校生徒商業研究発表大会」に東京都代表として参加しました。この大会では、全国各地で様々な新商品の開発や地域貢献活動などを通して、地域社会と共に生きていく学校・商業高校生の姿を生徒自身が発表しています。

【これまでの取組み】

本校では、模擬株式会社“芝翔”を生徒の手で運営しています。これまでの学習経験やアイデアなどを活かしながら地域社会とのコミュニケーションを深め、「安心と信頼」を高める活動を行っています。

今年度も全国生徒商業研究発表大会の京神ブロック予選を勝ち抜き3年連続で都の代表となり、全国に芝商業高校の活躍の様子を伝えています。

これまでの活動内容は、次のとおりです。

＜平成16年度＞

「高校生でもできる起業」をテーマに、株式の上場の実践（株式発行や会社設立の流れ）、経営資金を利用した海外商品の輸入などを実際にを行い、起業について研究発表しました。

＜平成17年度＞

「芝翔ブランドの向上」をテーマに、企業としてのフィラソロピー活動（社会貢献活動）についての研究。実際に地域社会へ出て、商店街などのボランティア活動を行い、ブランドを向上させることの大切さや知的財産権の必要性などを学習し、その結果を発表しました。

＜平成18年度＞

「顧客満足（C S）向上＝企業価値の上昇」という仮説をたて、お客様志向の取組みや「信頼」というキーワードがビジネスには大事であること

を理解し、顧客満足（C S）上昇の本当の意味について研究発表しました。

当期は、（株）金太郎飴本店と共同開発で「みんなと虹色飴」という芝翔オリジナル商品を開発し、販売することに成功しました。また、「TOKYO商業・商店街元気大作戦」などを実施し、東京で作られている数多くの商品や名産品などを幅広い地域で販売するなど、地域社会を高校生の手で盛り上げ、街を活性化するという充実した取組みを行ってきました。



（地域社会（商店街）の方々との協働活動により）
（成長していく模擬株式会社“芝翔”的生徒たち）

【発表大会に参加して】

生徒に高い学習意欲を持たせるには、教師自らが専門的なビジネス知識を身に付け、時代の流れを読み取り、時には生徒と共に汗を流し、向き合い、真剣に取り組まなければならないことを強く実感しました。

さらに、これらの活動が生徒自身の心を鍛え、人とのコミュニケーションの大切さを学ぶなど、生徒にとって大きな意味を持ち、高等教育機関や一般企業等から求められる人材として成長できるよう、今後とも積極的に取組んでいきたいと考えています。

〈実践事例〉

「学ぶこと働くこと」

東京都立六郷工科高等学校 副校長 謙佐 真一



本校のデュアルシステム科は、平成14年9月第20期東京都産業教育審議会の答申を受け、企業での働く訓練・体験を授業とする職業教育制度（東京版デュアルシステム）として、平成16年4月、ものづくり企業が多く集まる大田区の雑色に開校・設置されました。

デュアルシステム科では、1年次に機械系・電気系・情報系の3つの企業から1社を選び、自分の興味・関心がどこにあるのか、自分の適性に合った業種・職種を見極めることを主目的に、7月・9月・12月の3回（各10日間）に分けて「インターンシップ」を実施しています。2年次には、1年次で身に付けた職業観や勤労観を基礎として自分の適性に応じた業種・職種の企業において、5～6月の2ヶ月間にわたり40日間の「長期就業訓練」を行い、学校での授業と企業での就業を通して専門性を高めるようにしています。3年次においても10～11月に2ヶ月（40日間）の「長期就業訓練」を実施し、さらに、5～6月には生徒の希望（選択制）により2ヶ月（40日間）の「長期就業訓練」が受けられるなど、最大で29単位を卒業の単位として認定されます。

○生徒の感想文から 3年 泉 和久

私は、高校に入学する前から卒業後は就職しようと思っていたので、就職が有利な本校のデュアルシステム科に入学しました。入学当時は、実際のところインターンシップというのがどのようなものか分かりませんでした。そして、7月に初めてインターンシップを体験し、ものづくりの素晴らしさや高度な技術を体得することの難しさを感じました。

2年生になり、今度は2ヶ月間の長期就業訓練を最後まで続けられるか心配でしたが、終わって

みればあっという間のできごとでした。企業での実習中は、学校と違って一日が長く感じられ大変でしたが、思っていた以上に得るものが沢山ありました。最初の頃は、このデュアルシステム科に入学したことを少し後悔したこともありました。しかし、長期就業訓練を終え、色々な人から「少し変わったナ。」と言われ、この科に入学して良かったと感じるようになりました。

3年次は、2年次と違って2ヶ月間を2回（計4ヶ月間）参加することになり、「そんなに続けられるかな。」という不安と、「どれだけ技術が身に付くのかな。」という期待が半分半分でした。そして、最初の2ヶ月は体力的に自信がなかったので、とりあえず体を慣れさせることだと思いました。次の10月からの2ヶ月間は、仕事での技術力アップを目指しました。参加する前は、4ヶ月間の就業訓練は少し長すぎるのでないかと思いましたが、今では4ヶ月位がちょうどいい訓練期間だと感じています。

私たちは、デュアルシステム科の第一期生ということで、何もかもが初めてのことばかりであり、このシステムの善し悪しは分かりませんが、3年次の「長期就業訓練」は、自分にとってプラスになったと言うことができます。卒業後の進路は就職を考えています。就職を希望する理由は、小さい頃から手先の器用さに自信があり、それを活かすことができる専門職に就きたいと思ったからです。企業選びの際には、一年次にインターンシップで行ったM社が仕事場の雰囲気もよかつたので、自分の性格に合うと考え、できればM社に就職したいと思っています。



恵雅堂出版株式会社

資本金：1000万円 代表取締役社長：麻田平蔵
東京都新宿区原町1-28 <http://www.keigado.co.jp>

<創業>

昭和26年（1951） 有限会社として発足、昭和40年（1965）に「恵雅堂出版株式会社」に社名変更、現在に至ります。

<従業員数・営業拠点>

約70名

別 館 東京都新宿区喜久井町34番地

東京都新宿区山吹町128番地

多摩営業所 八王子市・中央大学生協内

<事業案内>

東京都内及び近郊の大学・高等学校・中学校の卒業アルバム・学校案内・記念誌等の作成。写真集他一般書籍の作成を手がけています。

<経営理念>

青春時代の一頁を鮮やかに残すべく、「心に残る」仕事を心がけ、社会還元のために、社員一丸となって各種制作に当たっています。

<主要営業品目>

- 写真集他一般書籍
- 卒業記念アルバム
- 学校案内・会社案内・記念誌 等
- ポスター・カレンダー・絵はがき
- 自費出版企画編集
- 音楽CD

<特筆事項>

外注等による製品不安やコスト高を排除するため、印刷までのシステムを社内で完備しました。これにより撮影から編集、印刷、製本、納品まで一貫した管理の下に制作されます。よって、質の高い安定した商品を安価に提供することができます。

<青年へのメッセージ>

みなさんも社会に出てからは、是非「人の記憶に残る仕事」を目指して頑張ってください。

東京デンハン株式会社

資本金：5800万円 代表取締役会長：久保村昭衛
東京都千代田区外神田5-6-7 TEL 03-3832-6283

<創業>

昭和40年、秋葉原に電子部品の製造と卸販売を目的として「東京電音株式会社」を設立。東京オリンピックのあの不況の中で、自社工場もなく、出資によって協力工場を数ヶ所に持つことができました。努力の花が咲かない理由のひとつが客種の少ないことに着目、ちょうど昭和46年亥年“猪突猛進”のことばに打たれ、少数精銳を心がけ、商社であることを改めて認識。その結果、平成元年に会社株式を上場することができました。数年前から子会社である東京デンハン(株)の経営に携わり、時代の流れとともに会社の内容は変わども、目的は同じ“猪突猛進”を心がけています。

世に電気のある限り、未来永劫続くであります。“世界の秋葉原電気街”に籍を置いている商社です。

<経営理念>

文化の向上と環境保全に貢献する。

顧客の満足を意識し、販売の向上に努める。

<青年へのメッセージ>

○人の言葉には耳を傾ける。

○努力と知恵の向上に努める。

○多くの友をつくり、強い精神力を養う。



平成19年4月開校の高等学校紹介

東京都立穂ヶ丘高等学校

単位制・総合学科・三部制・定時制

東京都中野区上鷺宮5-11-1 TEL 03-3970-8655
(西武新宿線「下井草駅」徒歩6分)
(西武池袋線「富士見台駅」徒歩13分)

本校は、本年4月開校予定の単位制・定時制・三部制の総合学科高校です。小・中学校で不登校を経験した生徒や、高校を中退した生徒など、これまでの教育で自分の能力や個性を十分に發揮しきれなかった生徒が安心できる環境の中でじっくりしっかりと学び、自分の目標に向かってまじめにチャレンジして、自己実現を果たすための学校です。

1. 学校のシステム

生徒は、午前、午後、夜間のいずれかの部に属し、「情報・デザイン」、「ビジネス・コミュニケーション」、「人間・環境」の3つの系列の専門科目をはじめ様々な科目の中から、自分の興味・関心、進路等に応じて選択します。さらに、がんばれば三年間でも卒業することもできる「三修制」を導入しています。

2. 特色ある教育課程

生徒が安心して学習できる環境にするため、担任の目が届く少人数指導やカウンセリング活動を充実させます。さらに、確かな学力を保証し、一貫したキャリア教育を行います。その基礎として、学習の土台となる技術を学ぶ「コーピング・メソッドタイム」や早稲田大学と共同開発した人間関係力を育てる「コーピング・リレーションタイム」などの科目を設置し、生徒の自立を促す教育活動を行っていきます。



東京都立葛飾総合高等学校

単位制・総合学科・全日制

東京都葛飾区南水元4-21-1 TEL03-3607-3878
(東京メトロ千代田線直通 JR常磐線「金町駅」徒歩15分)
(京成線「京成金町駅」徒歩16分)

本校は、本年4月に東京東部地域に初めて開校する全日制の総合学科高校です。総合学科は、普通・専門学科に次ぐ第3の学科で、普通教科と専門教科を学ぶことにより、しっかりとした学力と時代に合った幅広い知識・技能を身につけます。

変化の激しい社会に柔軟に対応できる総合的能力を培い、3年間で進路実現を保証する「進路名門校」を目指します。

[カリキュラムの特色]

①国際コミュニケーション・スポーツ福祉・環境サイエンス・メカトロニクスなど6つの系列

150以上の多様な選択科目を設置し、生徒の興味・関心に応じて学習できる「科目選択制」を採用しています。

②学年の枠にとらわれない単位制やノーチャイム制の実施

自主・自律の精神のもとに、生徒一人ひとり

が主体性を発揮できる教育活動を実践します。

③国・数・英などの基礎学力と上級学校進学を視野に入れた科目の学習で幅広い進路に対応

習熟度別や少人数対応の授業で、生徒の能力・適性等に応じた丁寧な学習指導を実施します。

④キャリアカウンセラーを中心に、3年間一貫したキャリア教育プログラムの実施

1年次には「産業社会と人間」でライフプランを作成し、2年次以降は、自己の興味・関心や進路希望に応じた科目を選び、自分だけの時間割で学習します。



中学校技術・家庭科

第4回 創造ものづくりフェア in Tokyo

大田区立大森第二中学校長 稲所 要章

第4回 創造ものづくりフェア in Tokyo は11月18日(土)に工業校長会と共に都立科学技術高等学校と女子栄養大学(食部門)の2会場に分かれて開催しました。2会場の参加者は昨年の2倍近い約800名が集まり、会場は熱気に包まれました。入賞者は下記の通りです。

【生徒作品コンクール】

I 部門 <技術分野>

○間伐材から生まれたイス

瑞穂町立瑞穂第二中学校3年 小山 在文

○二段ラック

足立区立千寿桜堤中学校2年 北嶋征乃実

○マルチスタンド

足立区立千寿桜堤中学校2年 橋 早季

<家庭分野>

○ねこと遊ぶ絵本

東京学芸大学附属世田谷中学校3年 玉川 萌木

○布の絵本

品川区立鈴ヶ森中学校3年 山下加穂瑠

○ワンピース

足立区立江南中学校2年 森田かづみ

II 部門 <技術分野>

○自然のぬくもりを感じるイス

瑞穂町立瑞穂第二中学校2年 中村 一輝

○飾り台

青梅市立第三中学校3年 川島 翔太

<家庭分野>

○にこにこ誕生日

東京学芸大学附属世田谷中学校3年 吉岡 由貴

○おばあちゃんのバックリフォーム作品

荒川区立諏訪台中学校3年 木村 優希

【木工の技チャンピオン!】 東京地区予選

最優秀賞 足立区立第十一中学校2年 高橋 遥

優秀賞 足立区立千寿桜堤中学校3年 相馬 康平

足立区立千寿桜堤中学校3年 中野 裕樹

審査員特別賞 足立区立第十一中学校2年 木村 優史

【あなたのためのお弁当コンクール】

学長賞(1位) 文京区立第十中学校2年 串田ゆみ

高橋のぞみ 宮川奈々子

2位 大田区立雪谷中学校3年 平山咲弥 渡辺 恵
3位 江戸川区立小松川第二中学校2年 井桁 沙織
仲谷 えりか 三森 若菜
品川区立荏原第六中学校3年 塚田 麗央
中山ゆりか

【ホームソーキングチャンピオン】

優勝 練馬区立南が丘中学校2年 酒井 晶俊
2位 足立区立第六中学校3年 佐藤未南美
3位 江東区立第二南砂中学校3年 和田実佐子

【とっておきのハーフパンツ】

優勝 練馬区立南が丘中学校2年 酒井 晶俊

【東京都ロボットコンテスト】

<スプリンターデ部分>

1位 足立区立扇中学校 レッドサン(6.1秒)
2位 足立区立扇中学校 myカメカメ部隊cord
青龍峰No 05 阜月(12.4秒)

3位 杉並区立松ノ木中学校 リョボット(23.6秒)

<K-1部門>

1位 荒川区立第七中学校 Fe II
2位 豊島区立千登世橋中学校 自爆魔
3位 荒川区立第七中学校 酪農王者ウシキング
豊島区立千登世橋中学校 MB

<コンピュータ制御部門>

1位 大田区立大森第二中学校 Somuch 2
2位 大田区立大森第二中学校 コンパクト 2中
3位 大田区立大森第二中学校 黄泉ノ水底ノ 2中

【全国創造アイディアロボットコンテスト】 東京地区予選

<A-1部門>

1位 港区立赤坂中学校 フリ 1号
2位 大田区立大森第十中学校 サイエンスチビ号
3位 港区立赤坂中学校 ダーゼ 2

<A-2部門>

1位 豊島区立千登世橋中学校 最弱軍
2位 豊島区立千登世橋中学校 無双
3位 豊島区立千登世橋中学校 関様と後藤様

<B部門>

1位 江東区立深川第八中学校 イン∞フィニティ
2位 足立区立江北中学校 Twin Tower R : 2
3位 足立区立江北中学校 ジャイアント猪木

産業教育功労者、中学校技術・家庭科教育功労者表彰式

平成18年度（財）産業教育振興中央会実施の「賜金記念産業教育功労者」および本会実施の「産業教育功労者」に対する表彰式が11月21日（火）に都庁第二本庁舎30階教育委員会室で行われた。今年度の表彰者は高等学校11名、中学校7名、専修学校2名である。

式では、西澤宏繁会長から受賞者一人ひとりに表彰状と記念品が手渡され、永年の労苦に対するねぎらいのことばがあった。さらに、東京都教育委員会を代表して山川信一郎学務部長から、産業教育に対する多大な貢献と感謝のことばが述べられた。

その後、東京都公立高等学校長協会を代表して会長の佐治恒孝氏（都立晴海総合高等学校長）、東京都中学校長会を代表して副会長の高橋忠雄氏（墨田区立錦糸中学校長）から祝辞をいただいた。



＜賜金記念産業教育功労表彰者＞

- ・都立園芸高等学校 実習教諭 小林 茂
- ・都立農芸高等学校 教諭 小板橋二三男
- ・都立農産高等学校 教諭 三浦 澄子
- ・都立農産高等学校 専修実習助手 菅井 敏行
- ・都立青梅総合高等学校 専修実習助手 三田 俊一
- ・都立農業高等学校 教諭 新宮 恵吉
- ・都立農業高等学校 専修実習助手 秋間 俊雄
- ・都立府中工業高等学校 教諭 馬場 弘
- ・都立市ヶ谷商業高等学校 主幹 箭内 道生
- ・安田学園高等学校 教諭 遠山 時幸
- ・安田学園高等学校 教諭 金澤 寿久

＜中学校技術・家庭科教育功労表彰者＞

- ・新宿区立新宿中学校 副校長 佐久間洋子
- ・大田区立東調布中学校 校長 斎藤 健二
- ・大田区立蒲田中学校 校長 藤田 悟
- ・足立区立東綾瀬中学校 校長 千葉 武志
- ・葛飾区立亀有中学校 副校長 福岡 健
- ・江戸川区立小松川第三中学校 校長 金子 雄治
- ・筑波大学附属中学校 教諭 工藤 悅子

＜専修学校・短期大学産業教育功労表彰者＞

- ・東京誠心調理師専門学校 校長 廣瀬喜久子
- ・東京誠心調理師専門学校 副校長 堀居 英治

平成18年度 生徒作文コンクール表彰式

生徒作文コンクール表彰式が12月15日（金）に都民ホールで行われた。受賞者は晴々とした表情で表彰式に臨み、本会の西澤宏繁会長から賞状と記念品が授与された。

本年度は中学校171編、高等学校64編、専修学校21編の計256編の応募があった。作品数は昨年より41編減ったが、応募学校数は昨年度より若干増えている。また、本年度から最優秀賞を設け、受賞者自身が朗読を行い、好評を得ました。

【最優秀賞】

中学校の部

墨田区立豊川中学校 1年 田端 浩充

高等学校の部

愛国高等学校衛生看護科 3年 野口明日香

愛国高等学校衛生看護科 3年 山梨みなみ

専修学校の部

東京エアトラベル・ホテル専門学校

国際ホテル科 2年 星野 泰恵

平成18年度 見学・研修会

見学先：王子製紙株 総合研究所

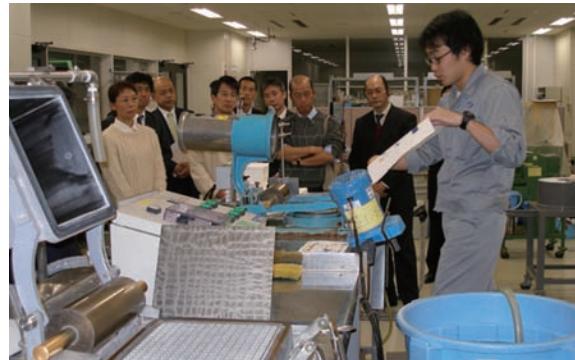
今年度の見学・研修会は、王子製紙株総合研究所のご協力により、12月7日(木)に実施しました。見学に先立ち、「紙のできるまで」のビデオを視聴し、その後で2グループに分かれ、次の4つの施設を見学しました。

- ① チップよりパルプにする工程（パルプ現物観察、チップやパルプの特性について解説）
- ② パルプより紙を抄く工程
- ③ 紙試験室（引っ張り試験機の実演）
- ④ 紙の断面、表面の顕微鏡観察（電子顕微鏡、光学顕微鏡による）

施設見学終了後、北尾 修 製紙技術研究所長より製紙技術および植林について講義があり、続いて、小高 功 製紙技術研究所主任研究員より製紙加工技術および紙の特性についての講義を受

けました。さらに、紙の特性について実演をしてもらいました。講義後の質疑応答では、予定時間を超すほどの多くの質問がありました。

この見学・研修会を通して、紙への関心が高まり、紙をつくる最新技術や森林資源、地球温暖化問題など、多くの知識やこれからの課題を学ぶことができたことだと思います。



第16回全国産業教育フェア、第48回全国産業教育振興大会

第16回全国産業教育フェア（埼玉大会）が、文部科学省他関係教育団体の主催により「若い力と技で育む 彩の夢」をスローガンに、11月10日(金)～12日(日)の3日間、さいたまスーパーアリーナを主会場として開催されました。

11日(土)に開かれた第48回全国産業教育振興大会では、文部科学省初等中等教育局長 銭谷眞美氏の来賓挨拶などに続き、深谷市郷土文化会会长新井慎一氏による講演「渋沢栄一のめざしたもの 道徳と経済の合一」がありました。

引き続いだ、全国産業教育振興会連絡協議会理事長の西澤宏繁氏が議長となり、次のような大会

決議案が全会一致で採択されました。

「次代の経済社会を担う人材育成、及び産業教育の一層の充実、活性化を図るために5つの事項実現に向けて関係各方面に働きかける。」



事務局より

- 生徒作文コンクールの応募状況をみると、高校生の応募者が少ないように感じます。将来の生き方について真剣に考え、その思いを文章化することで、生徒は気持ちの整理ができるのではないか。
- 今後とも、産業教育に関わる実践事例やプロジェクト研究等を紹介していきたいと思っています。自薦・他薦を問わず、多数のご応募をお待ちしています。

編集・発行 東京都産業教育振興会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁学務部高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

Fax 03-5388-1727

印刷所 (有)東京プリントック

R 100 古紙配合率100%再生紙を使用しています